

男鹿真山伝承館：実演 酒をすすめる親父

～場内をまわるなまはげ

主人が屈しないと気付いたナマハゲは、言葉だけでなく行動に移ります。ナマハゲは、家をより徹底的に調べることを宣言し、立ち上がってさらなる激しさで部屋にずかずかと入り込みます。（一瞬体をつかまれるかもしれませんが、心配ありません：山へ連れていかれることはありません）

いくつかの騒ぎの後、家長は最後の一手に出ます。家捜しをやめてくれるようお願いしながら、ナマハゲに丸いお餅を差し出します。この独特の食べ物は伝統的にお正月に食べたり飾り付けに用いたりするもので、繁栄の象徴であり縁起の良いものとされています。

ナマハゲはしぶしぶ餅を受け取り、対話は平和裏に終わります。ナマハゲは立ち去る前に、もし家族の誰かが怠けたり言うことを聞かなかったりするときには、真山の方向に3回拍手するだけでナマハゲを召喚できることを家長に伝えます。家が清められ、家族に規律や勤勉さ、敬老精神の大事さが伝わったところで、真山の山の神々の化身は来年また来ることを約束し、寒い暗闇の中へと消えていきます。